



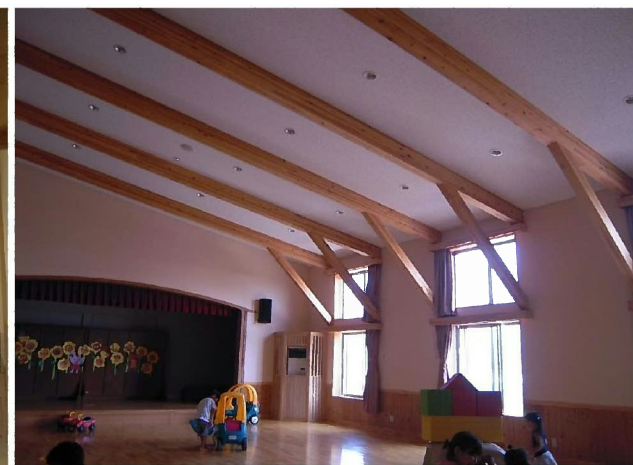
千曲市立 上山田保育園



西面外観 正面出入口



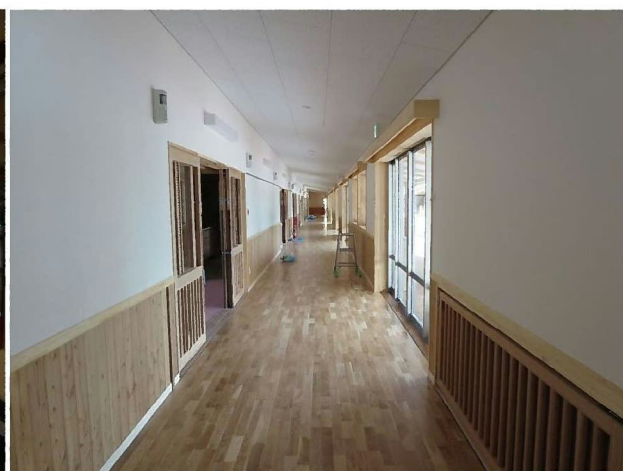
保育室 県産材：腰板、



遊戯室 柱・梁 アーチ状の舞台



南面 テラス 柱・桁・垂木・梁 木製下駄箱
丸柱（赤）は防水のために鉄板を巻きつけた



廊下 県産材：腰板・格子戸
廊下総延長約50m



保育室出入口 木製框戸



須坂市立 井上保育園

子供の夢をふくらませる外観



行政・地域・園児・保護者・保育士すべての関係者のための環境に配慮

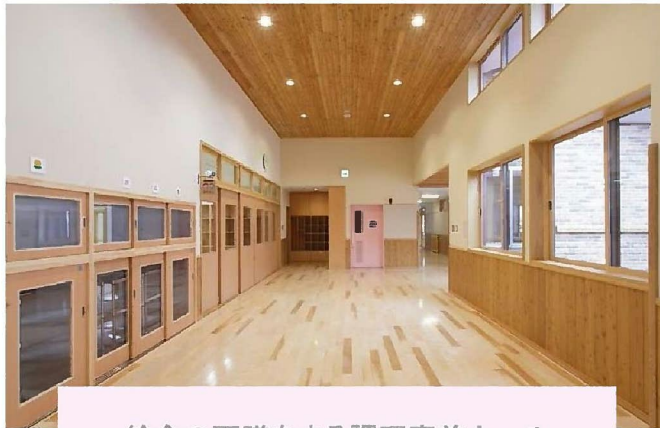


主要構造をKES構法採用により耐震・耐火の安全性を確保できる0歳児保育室

セキュリティを考慮した位置にある開放目的でもあるホールと子育て支援室



地元の木のぬくもりが感じられる空間で育つ子供たちが地域の明日を… つなぐ



給食の配膳をする調理室前ホール



自然の中でたくさん遊んだあとは汚れた手足を洗い流せるテラススペース



左に隣接する調理室を窓から見ることで食育の場となる子育て支援室

地域をつなぐ＜井上保育園＞



神科第一保育園

南東より全体を見る 眼下に上田市街が広がる



テラス 軒裏・外壁・建具は杉及び松、右端に見えるのは水飲場



廊下 真壁により柱・桁が現される、天井の杉が軒裏から続く



リズム室 ステージを見る ステージ壁は地元産唐松



多目的ホール 中心に位置する吹抜 上部から朝日が射し込む



保育室 栗無垢床板・赤松の家具・麦藁の壁、子供の目線は天然素材



あさひ保育園



外 観



0・1歳児室



4歳児室



廊 下



サンルーム



遊戯室



立科町保育所



遊戯室



管理棟施工時



外観 東側



テラス



図書コーナー



玄関ホール



名子中央保育園



【うんどうの庭からみる園舎】

軒下のメンテナンスが容易な箇所を中心に、県産杉板を使用。木材の持つ優しさや表情などに親んでもらうと共に、保護者作業等によるメンテナンス(塗装など)を行うことによって、この建物に愛着をもって可愛がってほしいといった願いも込めている。



【交流の庭】

交流の庭は主として未満児の庭。県産松材を使用したウッドデッキと、こどものスケールに配慮して、軒高を抑えた外壁には県産杉板を使用し、木の温もりを感じながら人工芝の舗装とあわせて1年を通じた安全に遊べる外部空間となよう計画した。



【多目的ホール出入口(ポーチ③)】

小公園(公共)に面した多目的ホールは、公園や園庭から直接アクセスでき、地域へ開かれた交流の場。柱・梁・垂木など、木造架構をあらわして使用し、野地板に県産杉板を使用した。木造特有の温かみのある大きな軒下で、地域・公園へ出迎える玄関となるよう計画した。



【小ホール】

小さな集会などに利用する小ホール。らくがきの壁(手前)と園児の目線にあわせた丸窓からは、交流の庭を望める。梁をあらわし、県産松フローリングとしなベニアで仕上げ、木目の温かみに包まれた内装とした。



【廊下④】

3才以上児前の交流の庭に面した廊下。肋木やクライミングウォールなど、年齢に応じた難易度に応じて配置してある。県産松フローリング・腰壁に県産杉材を使用した廊下には、好奇心旺盛な園児たちにとって、木質内装材に囲まれた中で、自由な発想で遊びを創り出してもらえよう、デンや肋木・ベンチを配置した。



【多目的ホール】

地域に開放することのできる多目的ホール。扇風機(左手)と運動して、「食」を交えた行事や、地域との交流行事など多用途で利用できる。壁の県産杉板は、木の温もりを感じられる意匠性と共に、軽運動で利用したときの多少の傷や衝突時の柔らかさなどの機能性も考慮した。



かわかみ保育園 子育て支援センター「きらきら」



キャノピーから連続する軒下空間。キャノピーの鉄骨や園庭の水飲み場には川上村のマスコットキャラクター「レタ助」の色を用いた。



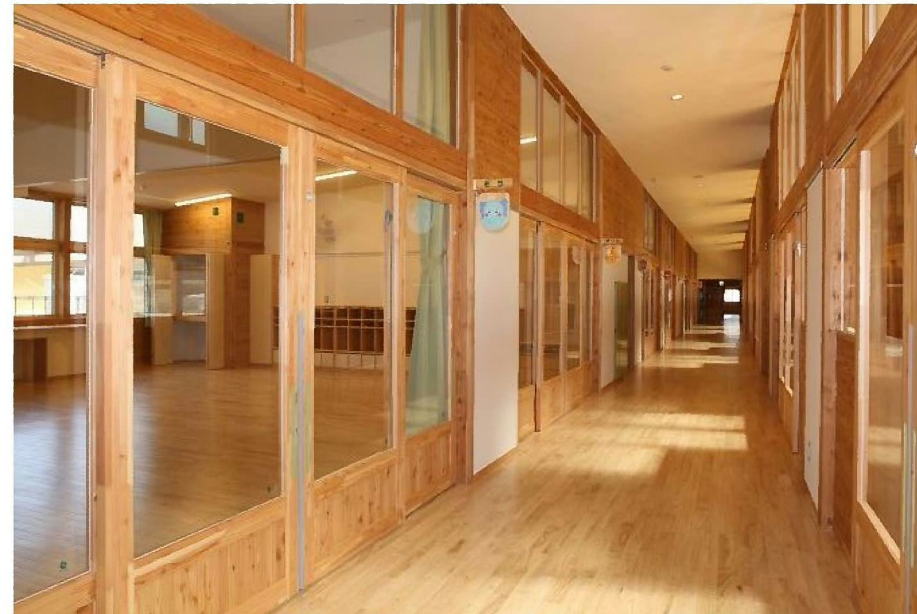
構造材(LVL)を表しにした遊戯室。見付けとなる面を積層面として、より美しさを引き立たせている。



子育て支援センター「きらきら」のプレイルーム。多様な子育てニーズに対応し、保育園と合わせ、村の子育て拠点機能を強化した。



サンルーム前の軒下空間。川上村産のカラマツをふんだんに使用することで、木の温もりだけでなく、地元の木ならではの魅力を持つ建物となった。



光が差し込む廊下。写真左側が保育室、右側がサンルーム。川上村産のカラマツを利用した内装材や建具など、積極的に木質化を図った。



児童養護施設「たかずやの里」



【南棟外観】



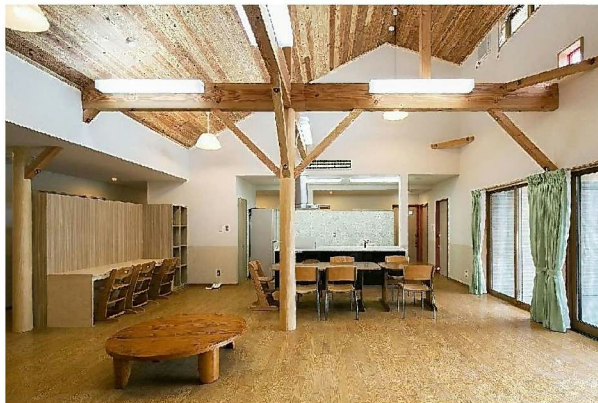
【西面外観】

学校からの帰宅は、西面の正面玄関からではなく男子・女子棟の2棟の入隅に設けた玄関からの出入りとし、外観も温かみのある暖色でまとめた。



【管理・幼児棟 多目的ホール】

一同に集い、食事・行事と楽しいひと時を過ごす。新ストップのある空間

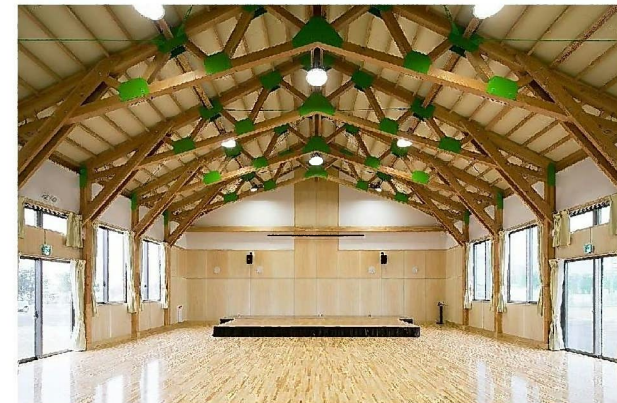


【女子棟 居間・食堂】



【男子棟 居間・食堂】

表わにした、構造材・造作材で天井の高い空間を、木のぬくもりを感じられる落ち着いた部屋とし、各家族が、つとに憩えるスペース。台所からはお母さん（寮母さん）が食事を作る様子が見えるようフラット対面キッチンとした。



【ふれあい交流棟 交流室】

構造材に取り付けたプレートをグリーン色とし、森のイメージの交流室



作品名

生協総合ケアセンター いいじま



【鳥瞰】

老人ホームをはじめ、様々な用途のエリアがある複合施設である。近隣との調和はもちろんのこと、どのエリアも密接な関係にあることから外観に統一感を持たせ、一つの町のような施設となるように考慮した。



【住宅型有料老人ホームやまなみ食堂・居間】

入所者の方の食事や団楽の場。腰壁、壁の一面に杉羽目板を使用し、構造材の梁・柱を現しすることで温かみのある空間とした。



【住宅型有料老人ホームやまなみ談話コーナー】

入所者の方、職員の方、訪問者の方など様々な方々の交流の場として配置した談話コーナー。構造材の筋交いを現しとし、木で作成したベンチと共に木の温もりを直接触れて感じられる内装とした。



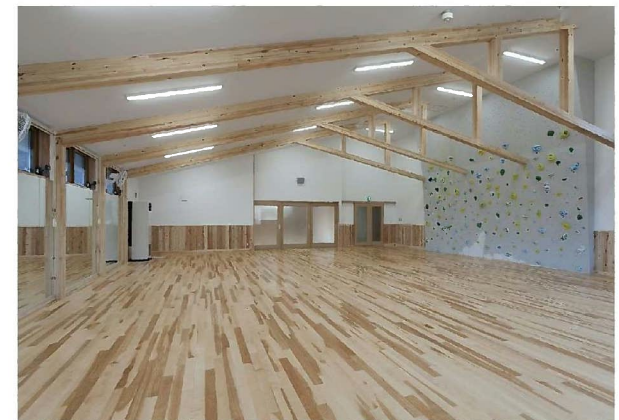
【生協診療所いいじま待合室】

施設利用者、地域の方が利用する診療所の待合室。手や体が触れる箇所に木を使用し、また、天窓と大窓により光を採り入れ明るく居心地のよい空間となるよう考慮した。



【デイサービスセンターいいじま短期食堂】

利用者の方が作業をしたり、食事をするスペース。構造材の梁・柱を現しとして、家具や床材の色合いを統一することで落ち着いた雰囲気のある空間となるよう考慮した。



【健康スタジオやまなみ】

様々な催物や活動の場として使用できるスタジオ。床にフローリング、腰壁に杉羽目板を使用し、大梁・柱を現しすることで大空間のなかでも木の温もりを感じられる内装とした。



安曇野市立 北穂高保育園



南側（園庭側）全体
断熱サンドイッチパネルと断熱サッシによる外断熱の外皮



子供たちの読書コーナー
現地建て替えに伴う1期工事（保育室棟）と
2期工事（管理棟）の接合部



4・5才WC
県産桧板張り



北アルプスを背（西側）に管理棟を設置
保育室等は南面配置



夏場の日射遮蔽と冬場のダイレクトゲイン
を生かした3mの庇の回廊



5才保育室
県産桧板張り



作品名

長和町ながと保育園



庇下から園庭越しに園舎を見た様子。中央にシンボリックな遊戯室が見える。遊戯室両脇の屋根には空気集熱式パッシブソーラーシステムの集熱パネルと太陽光発電パネルを設置。



▲庇下には部分的に県産カラマツ材の羽目板を張り、アクセントとなる家型の窓を設置している。



▲遊戯室はシンボリックな六角形の形をしている。六角形の頂点から屋根を支え合うようなダイナミックな架構とし、見る場所によって変化する構造材の重なりを楽しむことができる。



保育室の様子。保育室内の家具に、県産カラマツの集成材を使用している。



▲登梁を表とした開放的な絵本コーナー。中央に見える柱は県産カラマツ材のみが丸太のシンボルツリー。



▲廊下の様子。子どもたちの手が触れる壁の腰下は県産カラマツ材の羽目板張りとし、子どもたちの活発な行動にも耐えられるようにしている。中央の窓は外部の家型の窓を中から見た様子。窓台をベンチとして使える高さとしている。



門 前 回 廊

門前回廊全景



庇の下の通路の様子



柱と庇を見上げる



催しに併せた装飾



広場の植栽と門前回廊





長和町新庁舎

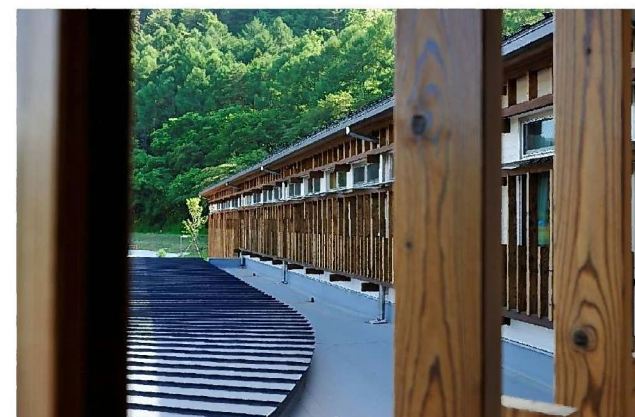


外観

南面



南東面



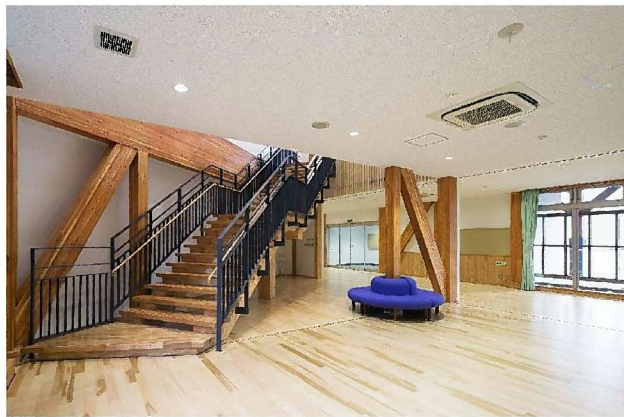
連格子部

1. 中山道曲がりの起点に由来したこと、計画地の敷地形状にならう、くぐりの字形配置とすることで、日当り、通風などの事務室の執務環境の向上をはかる。
2. 乾燥させた本物の木を使って当時の建築意匠の特徴を踏襲し、文化の継承をはかる。出柵や連格子など外部に使用。



内観

ロビー



ホール



庁務室

・柱や梁・筋違などの主要構造部だけでなく、床、壁、家具など木質化をはかり、木の温かみを感じられるインテリア。



安曇野市庁舎



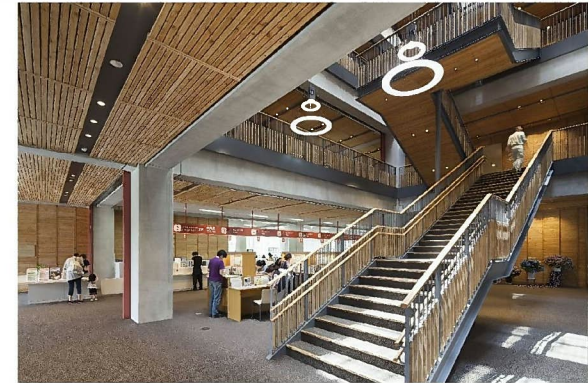
外観 遠景

安曇野市は平成17年に5町村が合併して出来た新しい市です。9ヶ所に分散していた機能を集約し、防災拠点として整備することを目的に新庁舎が計画されました。市長が掲げた「真実剛健」を合い言葉に、地域に愛されるような市庁舎をめざして建設されました。建物は地上4階、地下1階で低層の建物とし、周囲の景観に配慮しています。また、免震構造を採用することで想定される大地震にも対応出来るようにしました。主構造には高強度のプレキャストコンクリートを採用し、広々とした執務空間を実現しています。



外観 東側立面

建物の四周にバルコニーを設け、日射抑制や避難経路、将来のメンテナンススペースとしても利用できるように考えました。このバルコニーの奥の雨掛かりにならない外壁には安曇野市の固有林から伐採製材したヒノキ材を、内部の壁と天井には長野県産のカラマツ材をそれぞれパネル化して使っています。その結果、いたるところに木が見える豊かな空間が出来上がりました。年月を経るごとに材料の風合いが変化し、味わいが生まれ、安曇野の風景に馴染んだ庁舎になると考えています。



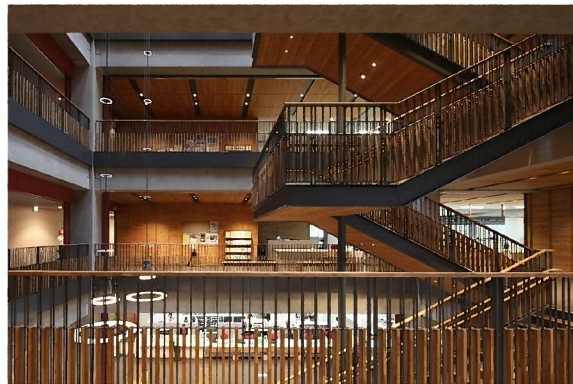
内観 1階東側ロビー

主構造にはプレキャストコンクリートを用い、防災拠点として堅牢な構造の建物でありながら、内外装に木材をふんだんに用いることにより、温かく親しみやすい表情をもたせています。来庁者が利用する共用部分の内装は可能な限り木仕上げとしました。仕上げ材にはすべて長野県産のカラマツを採用しています。カラマツの特徴である節を目立たなくするために小幅板に加工することにより、繊細な表情をつくり出しています。これを基本として場所によってディテールを使い分けました。



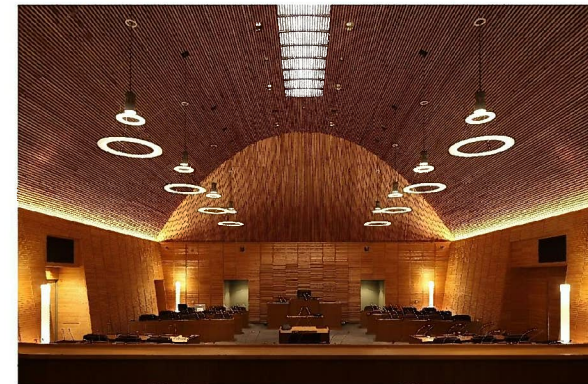
内観 1階受付カウンター

壁仕上げは45mmの小幅板を横張りにしてパネル化することを考えました。壁全体のモジュールから約600mmのピッチで割り付け、同材の押縁で固定しています。共用廊下部分の天井は1階が50mm、2~4階が60mmの小幅板で天井をつくり、約2.2mのピッチで照明等を納める設備パネルを設けました。下地には軽量形鋼を用い、強度的には万全を期しています。市民利用の多い1階ではスリットを設け吸音を取っています。内部階段の上げ裏や風除室の天井には、さらに細かな45mmの小幅板を使いました。



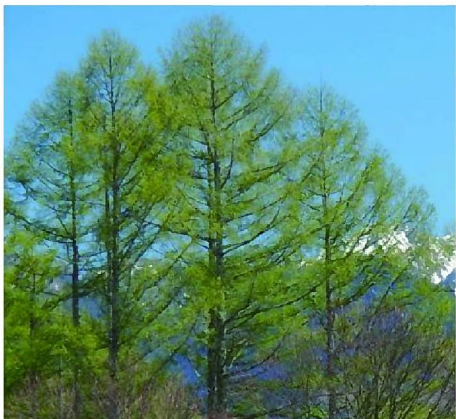
内観 吹抜けと階段

吹抜けの中の階段であるため、歩行する利用者の足下への視線を遮ることや大小の手摺を取り付けることが基本条件となりました。ここでは耐久性からナラの集成材を使い、スチールと組み合わせるデザインを考えています。スチールの手摺子の間に木板を挟み込むようにし、足下への視線を遮る納まりを考えました。人が触る手摺や段鼻もナラの集成材を削り出して使っています。現場で原寸モックアップをつくり、強度と見え方を検証しました。内装の壁仕上げと呼応するようなデザインとなっています。



内観 議場

安曇野市の大切なことを決める場所として、建物の中でも特別に象徴的な場所になることを考えました。ここでは70mmの小幅板に勾配を付けて下見張り状にとめ付ける、特徴のある壁のディテールとしています。天井は30×50mmの材をルーバー状に張り、ガラスウールを敷き込むことで吸音を取りました。また、トップライトを設け、日中は柔らかな光が落ちるようにしています。議場の正面の壁には、高さの違う角棒を組み合わせた凹凸のある仕上げを使い表情をつくっています。





“信州の木”建築賞

発行：2016年 11月
長野県建設部建築住宅課